

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題3	資料を見る限り、地域における医療ニーズにマッチするかどうかという視点がない。病床削減ありきではなく、実際にこのデータでよいのか検証する必要があるのではないか。	病床削減ありきではなく、今後の人口動態として人口減少や医療従事者の減少を鑑みて、医療機関同士が共倒れにならないように助け合うことが大事である。
2	報告 事項2	産婦人科について、集約や連携という議論があるが、集約化を進めることで地域偏在を助長する可能性もあるため、無責任に集約化という言葉を用いるのはいかがなものか。	全てを集約化するわけではなく、求められる医療の診療分野や診療機能に応じて、また、医療従事者の確保も含めてどこにどのような医療が必要かを地域医療構想で議論すべきだと考えている。
3	報告 事項3	看護職員の確保について、他の職種と異なり女性が多いため、女性の働き方改革が議論としてあるが、一方で男性の看護職員を増やす方策はあるのか。	男性の看護師を増やすための施策として現在取り組んでいるものはない。ご指摘を受けて、前向きに検討させていただきたい。
4		男性の看護師は増えてきてはいるが、確保はなかなか難しい現状である。医師の地域枠制度のように、看護師も大学と連携し、地域医療枠のような制度があってもよいのではないか。	
5	報告 事項4	岐阜大学での地域枠制度は承知の上で、西濃地区に医師が回ってこないという話もある。全国では私立大学が地域枠制度をやっているところもあるが、岐阜大学としては、そのような取組みを併行して行っても構わないのか。	地域枠制度について、岐阜大学以外でも、岐阜県出身者で他大学に進学した方が岐阜に戻ってくるという制度はあるが、離脱率が高く厳しい現状である。(アドバイザー)
6	その他	看護師の確保が課題であり、当直できる看護師が少ない。若い看護師は訪問看護ステーションに取られており、入院を見れる看護師が減ってきている。医療従事者の確保に向けて、県内で育てた人がどこで働いているのか、データを教示いただきたい。	
7		今までは病床の再編が主に話し合われていたが、これからは新たな地域医療構想の策定の中で在宅医療の話もでてくる。高齢化が進む中で、病院だけで解決できる問題ではないため、人材の適切な配分により、在宅医療もバックアップしていく必要がある。	
8		昨今、医療機関の倒産が相次いで非常に問題になっている。診療報酬を上げることが一番有効な手段だと思われるがいかがか。	国では診療報酬について、次期改定の令和8年度に向けて人件費や物価の高騰を踏まえた検討をしている状況である。
9		人材の確保について、ハローワークに出すと人材派遣会社から連絡があり、紹介会社を経由して雇うと多額のお金がかかる。この実態を行政機関がしっかり調査いただき、把握・指導していただきたい。	その問題については、国でも課題意識、問題意識として認識している。県の中でもいかに適切な形で人材確保につなげられるかという観点でしっかりと検討していく。
10		この地域医師会は全てが診療所で構成されており、病院がない現状である。診療所ベースで、人口当たりどれくらいの診療所が必要かなど、データで示していただけるとありがたい。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
11		今後高齢化が進んでいく中で、医療介護、生活支援が一体となった地域包括ケア、生活と暮らしの視点が非常に大事である。看護職、介護職が在宅や療養生活を支える要として重要な役割を担うため、認定看護師や専門看護師等も含めてぜひ地域で活用していただきたい。	
12		医療機関の役割分担や病床機能の見直し、集約化が進む中で、高齢者や交通手段を持たない方への情報提供やアクセス支援が今後の課題である。	
13		非稼働病床について、現在休床しているところが本当に稼働できるのか、人口減少も踏まえて病床のあり方を考えなければならない。	